

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による積極的な経済対策や日銀の大規模な金融緩和政策と併せて、緊急事態宣言解除後の経済活動の再開により、景気は緩やかな拡張局面に転じた可能性があるものの、未だ新型コロナウイルス感染症の拡大ならびに長期化への懸念は拭いきれず、社会的・経済的活動に一定の制限が課される状況が継続していることに加え、世界経済を巡っては、政治的対立も重なった米中関係の一段の激化や、中東における地政学的リスクの高まりが危惧され、更には世界的に蔓延する新型コロナウイルス感染症の収束時期に見通しが立たないなど、不確実な世界情勢に伴う国内経済の下振れリスクが大きく膨らみ、景気の先行きに対する不透明感は、依然として払拭できない厳しい状況の下で推移いたしました。

当社の関連する住宅市場におきましては、低水準にある住宅ローン金利や省エネ住宅への補助金制度など、政府による各種住宅取得支援政策が下支えしたものの、新設住宅着工戸数においては、持家・貸家及び分譲住宅がともに低水準で推移したことに加え、相次ぐ自然災害の発生や感染症に対する不安などにより、住宅取得マインドは極度に冷え切った状態に陥るなど、住宅業界を取り巻く環境は依然として厳しく、本格的な市場の回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

このような状況ながらも、当社は今期を最終年度とする「第10次中期経営計画(第65期～第67期)」において掲げた「自己改革を追究する企業風土の承継と発展」とのスローガンの下、「将来の発展を支えうる経営基盤の確立と進化」を基本方針として「内装金物(住まいの金物)の全般」を自社ブランドで網羅する「住空間創造企業」を目指し、主力商品群に成長したソフトクローズの機能性と利便性の更なる向上を実現するなど、当社独自の機能を持った商品群の拡充と、市場への浸透に注力したことに加え、当社の情報発信基地としての性格を持つアトムCSタワーでは、コロナ禍の収束後に備えた事業展開を推進しつつ、更にはホームページ内の「atom 動画ぎやらりー」では、新製品の施工動画を新たに追加配信するなど、主力商品について単なる商品紹介に留まることなく、職人不足が顕著な建築現場においても、施工方法や手順・調整方法などをオンライン上で明確に確認できる、動画コンテンツの拡充に努めました。併せて販売費及び一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じて、困難な市場環境に対応し得る営業体制とこれを支える管理体制の強化を図るべく、当面する各々の課題に取り組んで参りました結果、当第1四半期累計期間の業績は売上高2,241百万円(前年同期比13.7%減)、営業利益119百万円(前年同期比37.2%減)、経常利益121百万円(前年同期比37.8%減)、四半期純利益77百万円(前年同期比35.4%減)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の資産総額は11,992百万円となり、前事業年度末に比べ29百万円の減少となりました。主な内容は、有価証券(譲渡性預金)及び投資有価証券が1,304百万円、商品が61百万円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が1,322百万円、受取手形及び売掛金が107百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

負債につきましては2,740百万円となり、前事業年度末に比べ38百万円の減少となりました。主な内容は、支払手形及び買掛金が89百万円増加しましたが、電子記録債務が104百万円減少したこと等によるものです。

純資産につきましては9,251百万円となり、前事業年度末に比べ9百万円の増加となりました。主な内容は、配当金支払で69百万円減少しましたが、当第1四半期累計期間における四半期純利益で77百万円増加したこと等によるものです。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、前述した経済環境に加えて、雇用・所得環境の悪影響が本格化する予断を許さない不透明な状況が続くものと考えられますが、当社の関連する住宅市場におきましては、政府による継続した住宅取得支援政策を背景に、相次ぐ自然災害の復旧・復興需要と併せて、コロナ禍ながらも一定のニーズによる市場の活性化が期待されるものの、未だ新型コロナウイルス感染症の縮小・拡大の動向、ならびに収束時期の見通しが立たないため、景気の下押し圧力が働くことが強く懸念され、新設住宅着工戸数の動向については、感染症の収束に加え、所得環境及び消費性向のより一層明確な改善が伴わなければ、顕著な回復には至らない状況にあるものと思われま

す。このような状況の下、当社は引き続き住宅関連市場に関わる各種テーマを深掘りしつつ、「新しい生活様式」が求められる時代を住宅面で支援する総合力の強化に最大の努力を傾注して、創業以来117年の思い「独り歩きのできる商品を提供する」を全うし、併せて今期を最終年度とする第10次中期経営計画で掲げた基本方針「将来の発展を支える経営基盤の確立と進化」に従い、令和2年9月25日開催の第66期定時株主総会を以って代表取締役の異動を含む新役員体制とする経営陣の刷新を実現し、次世代を見据えた経営体制のより一層の強化を図り、鋭意、企業の社会的責任を果たして参る所存であります。また第2四半期冒頭より、一層の商品開発の充実と販路開拓の拡大に努め、既存事業と新規事業との相乗効果を創出する「住空間創造企業」としての独自性を追究するとともに、全社一丸となって「伝統」を活かしながら「変革」に挑みつつ、時代に呼応した事業スタイルの確立を目指して参ります。一方、アトムCSタワーにつきましては「空間提案」として位置付ける「LIVIN' ZONE」の新たな展開を始め、当社の全事業及び全商品の情報発信基地として、SNSの活用も検討しつつ、当社のステークホルダーの方々はもとより、異業種・異分野の方々との交流、及びコラボレーションを進め、併せて同館を拠点とするアーバンスタイル事業部では、生活者の価値観やライフスタイルの多様化に応えつつ、更には日本の伝統工芸や手仕事といった「日本のものづくり」を通じた文化的価値観の提案、コンサルティングなど、鋭意、豊かなライフスタイルを醸成する活動に注力して参ります。

なお、第2四半期累計期間及び通期の業績見通しにつきましては、現時点において令和2年9月11日公表の「令和3年6月期の業績予想」に変更はございません。